

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1270902693		
法人名	医療法人社団寛麗会		
事業所名	グループホーム うららか船橋		
所在地	千葉県船橋市金杉9-8-22 (電話) 047-406-7710		
評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価確定日	平成20年10月10日

【情報提供票より】(平成20年9月10日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算	10.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建て	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,350 円			

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4	要介護2	4		
要介護3	6	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	70歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東船橋病院、渡辺整形外科、寺田耳鼻咽喉科、若葉クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

船橋市郊外の、畑地と住宅地とが混在した地域に立地した2階建て2ユニットのホームである。ホーム玄関を入ると正面に明るい居間・食堂があり、右側の広い廊下の両側に居室が配置され、ゆったりとした過ごしやすい空間である。「福祉の常識にとらわれず今後求められる高齢者サービスを追及します」を理念の中心としている。管理者・職員は利用者の肉体的・精神的レベルにあわせて「その人らしく」暮らしをいけるよう支援しており、家庭的な和気あいあいとした関係が築かれている。また2ヵ月に1回「うららか通信」を発行して、季節に合わせた催し(お花見、七夕会等)での利用者の近況を家族に伝えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で「運営推進会議開催を期待する」と指摘されたが、今年8月に第一回目の運営推進会議が開催され改善された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員全員でミーティング時に話し合い、自己評価に取り組んだ。今回「取り組んでいきたい項目」5項目取り上げた。全体のミーティングを通して改善状況をみながら一つずつ具体策を考え進む方向である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、今年8月第一回目が開催された。参加メンバーは、民生委員、地域包括、家族会、職員である。お互いの親睦を深めるとともに、ホームに対する要望、今後の課題等討議された。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族交流会で利用者家族からの意見・要望を確認する。それらは月1回の全体ミーティングで取り上げ、対応している。また利用者アンケートの「事業所の改善して欲しい点」での意見をくみ上げ運営に反映させている。他に面会時、家族からの相談に積極的に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の幼稚園のお祭り、自治会主催の草取りに参加して地元の人との交流をはかっている。また散歩時には近所のかたに挨拶したり、農作物・お花をいただいたりしている。ホームには時々ボランティアの方が来られ、大正琴、踊り等余興をしてくれる。また、中学生の実習を受け入れ、交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「皆様の為に何が出来るか常に考え学び改善する精神を大切にします」「福祉の常識にとらわれず今後求められる高齢者サービスを追及します」ことを主な理念としている。理念を玄関ホール、事務所内に掲示している		現在パンフレットの改定を計画している。理念を記載するときには、地域密着型として地域の中で暮らす概念を加味されることを期待している。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の全体ミーティング時、日常的なスタッフの話し合い時に理念をとりあげ共有をはかっている。また利用者・家族にも契約時に理念の説明をしている。利用者への声かけは理念に基づき個々のペースにあわせている		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していないが、自治会主催のゴミ拾い、地区の幼稚園のお祭りに参加し、地元の人々との交流をはかっている。散歩時に近所の方に挨拶したり、農作物・お花をいただくこともある。また中学生の実習を受入れ、交流に努めている。		地元の人々にホームの理解と協力を得るため、地区自治会に加入し、相互の交流をすすめていくことを期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員全員で話し合い、自己評価をし、外部評価を実施する意義を共有している。評価後の改善計画は、全体ミーティングで取り上げ、実施に向けた取り組みをしている。外部評価書はカウンターに設置しているが、wamnetを通して確認する利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>第1回目の運営推進会議が8月に開催された。メンバーは、民生委員2人、地域包括、家族会、管理者・職員である。お互いの親睦を深めるとともに、ホームに対する要望、今後の課題等討議された。</p>		<p>定期的に運営推進会議を開催し、自治会・老人会等地域の人たちがメンバーに加わっていただく取り組みをしていくことを期待する。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市内グループホーム連絡会に、積極的に出席して、市担当者と交流するように努力している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月請求書送付時に、利用者の健康状態・様子・食事等について、書類にて詳しく家族に報告している。また2カ月に1回「うららか通信」を発行し、職員紹介・お花見・七夕会・カラオケ等写真付きで家族に送付している。金銭は毎月出納帳をつけ報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族交流会は利用者と共に食事・おやつを食べながら、なごやかに過ごし、ホームへの意見・不満を言いやすい雰囲気をつくっている。家族同士の雑談からホームへの要望を汲み取り、ミーティング時に話し合い運営に反映させている。</p>		<p>定期的に家族交流会を実施されることを期待している。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には職員は固定し異動はしていない。ただ去年は短期間での退職者があったが、現在は職員の増員があり安定してきている。新職員は、お茶の時間に管理者が利用者一人ひとりに紹介する。その後、管理者がマンツーマンで新職員に付き添い、利用者が馴染むよう時間をかけて指導している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社後試用期間を設定し、新職員が意見を言いやすい職場環境づくりをしている。現場での育成はマンツーマンで、その人の力量・段階に応じて指導している。また研修出席時には皆でシフトを少しづつ組み換え対応している。研修結果はミーティング時に報告し共有をはかっている。</p>		<p>厳しい勤務状況の中で研修の時間が取りにくいと思うが、理念の「今後求められる高齢者サービス」実現を考慮して、職員がスキルアップのための研修に参加できるような取り組みを期待する。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は市内グループホーム連絡会に積極的に参加して交流をはかっている。同時に開催される勉強会の結果はホーム会議に取り上げ、職員共有している。また他グループホームと相互に見学会を実施してサービス向上に役立てている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>契約前に本人・家族ともにホームの見学をする。家族も含めて宿泊する場合もある。その後、利用者本人の馴染みの品を持ち込んで入居にいたる。入居後しばらくは家族に頻回訪問していただく。そして利用者が徐々にホームに馴染んでいけるよう努力している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は共に暮らす仲間として共感しあっている。利用者の得意の分野で、編み物を職員に教えてくれたり掃除・洗濯を手伝ってくれる。また職員の分までズボンの繕い・雑巾縫いをする。職員が疲れた顔を見ると、ねぎらいの言葉をかけたりマッサージをしたり、相互に支えあう関係が築かれている</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式によるアセスメントを実施し、心身の状況・本人家族の意向・生活歴等あらゆる角度から利用者個々の把握に努めて、暮らし方の希望や意向を引き出すようにしている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の日常の行動や会話で本人の思いや意向を聞き取り、会議時に全職員・本人家族等と意見やアイデアを出し合い、具体的に実現できる様な目標を定めて、介護計画を作成している。参加できない家族とも密に連絡を取り、意向を反映させるように心がけている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三ヶ月に1回の評価と六ヶ月に1回、利用者の生活課題が在る・無しに関わらず、定期的にモニタリングを行い、介護計画に反映させている。又家族に報告・相談して同意を得て見直しをしている。</p>		
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>希望に応じて墓参り・外泊・外食等柔軟に対応している。また同法人歯科の往診もあり、事業所の多機能性を活かし、利用者の希望に応じたサービスが提供できるよう取り組んでいる。</p>		<p>散歩時、近所への挨拶を心がけたり、町内の草取りに参加したりしているが、自治会への加入が無く、施設の存在を余り知られてない。民生委員・自治会役員等を通じて、地域の認知症の理解を広める為の拠点となることが期待される。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医による継続的な医療が受けられる様、家族対応で行っているが、無理な場合は職員が付き添う。受診結果に関する情報はスタッフ・家族で共有化している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルケアは行わない方針であり契約時に説明し了解いただいている。現在重度化して入浴・おむつ等全て二人介助を行っている方がおり、可能な限りホームでの生活を継続して頂くため職員一人ひとりがケアの質に差が無い様努めているが、負担が大きく退去の検討を行っているが家族に応じて頂けない</p>		<p>今後、利用者の重度化に対して、関係者全体で方針の統一を図り、状況に応じて話し合っていくことが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの確保や利用者の尊厳を守る対応については毎日のミーティング・月1回の全体会議で対応の統一を図り、職員相互で注意喚起している。また記録等の取り扱いも外部漏洩のないように管理されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れは持っているが、利用者一人ひとりのペースで自由に過ごしている。本人の希望・意思を尊重し、体調を考慮して、さり気なく見守りを行い、ゆったりした時間を過ごしていただき、出来るだけ個性のある支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から後片付け迄、利用者も出来る範囲で参加し、若い職員に野菜の切り方を教えるなど、和やかな雰囲気の中、ご飯とお汁は必要量を自分で入れて運ぶ方もおり、利用者の主体性を発揮できるように、取り組まれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や、これまでの生活習慣に合わせて可能な限り対応して、個別性の重視をしている。また同性介助で対応し、羞恥心にも心配りしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員間で利用者の希望を引き出すアプローチを心がけ、縫い物の得意な方は繕い物を一手に引き受け、お茶を入れるのが好きな方は来客があると進んでお茶を出すなど、さり気ない声掛けや誘導をして、一人ひとりが何らかの役割を持てるような支援が行われている		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の生活を外へ向けようという視点を大切にして、天気の良い日は必ず散歩や買い物に出かけている。利用者一人ひとりの希望に沿うのは限界があるが、職員で手分けして出来る限り対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面に配慮しながら、日中は施錠せず、自由な暮らしを支える様にしている。徘徊癖のある利用者が数人いるので、万が一のため玄関にセンサーを設置している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回消防署の指導の下、定期的に防災訓練を実施している。災害時のマニュアルが作成され、緊急連絡表が目につく所に掲示しており、消防署直通の電話・スプリンクラーが設置してある。しかしながら地域の人々へ協力を得られるよう、働きかけはされていない。</p>		<p>災害時における地域との協力体制を確立し、災害対策をさらに向上させ、備蓄品の準備も早急を実現することを期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取状況を個別に記録して体調管理に留意している。法人の理事長夫人が栄養士なので、栄養バランスのチェックをしてもらい助言を得ている。特に水分補給に気を配りリビングで何時でもお茶・ジュース・牛乳等が飲めるように支度してある。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じさせる装飾品や花が飾られ、居心地良く過ごせる工夫をしている。また庭にはミニ菜園を作り全員で収穫を楽しんでいる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安全に配慮した上で使い慣れた家具・身の回り品を持ち込んでいただき、利用者の希望に沿って居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。